

平成29年5月度活動報告

1. 総括

市政に大きな動きがありました6月度も皆様のお陰さまを持ちまして議員活動に励ませて頂き誠に有難うございました。議員任期を折り返し、益々責任の重みを痛感する日々であります。6月定例議会では一般質問において「海岸漂着ゴミ処理問題について」質問し行政と議論致しました。海岸線地域の高齢化・人口減少の深刻度を説明し地元社会奉仕活動での対応では限界が来ている旨を強く訴え、福井県が海岸線の管理者といえども敦賀市の積極関与を要望しました。またその予算として県が国の支援を受けて計上している「海岸漂着物地域対策推進事業費」の積極活用を要望し、行政側からは来年度より敦賀市が当予算を活用して積極的に海岸漂着ゴミ処理に対応すると明確な答弁を引き出せました。

http://www.tsuruga-city.stream.ifit.co.jp/?tpl=play_vod&inquiry_id=654 →ネット検索

今後海岸線地域の代表者を交えて詳細を詰めて行きますが、海岸線地域の方々が長年切実に困っていた事を議会で議論し、解決への糸口を掴めたのが非常に良かったと感じております。

また、新市庁舎建設地問題につきましては、6月定例議会におきまして「現所在地で建替え」と決定しました。新聞紙面で報道された内容には出てこない行政と議会のやりとりが多数あり、「現所在地で建替え」決定の経緯が分かりづらいかと思えます。しかしながら今回議会が「組み換え動議」→「修正動議」→「決議」が賛成多数で可決された大きな理由は、事前の「市庁舎建設対策特別委員会」等の議会と行政の議論場を通じて、市民3,000名を対象にしたアンケート内容についてA案(現所在地)とB案(萬象地)の公平性が担保された形でアンケートできない可能性が高いと判断した事やアンケート結果は建設地決定の一つの参考にしかないとの行政の見解など、血税で作られている予算468万円が無駄になるとの危機感からです。行政側が議会の求めに対しアンケート内容の的確な修正や貴重な市民からの意見を「尊重」するとの見解を示していれば一連の動議は出なかったと思えます。特に新市庁舎建設地のような大きな政策はしっかりと「二元代表制」として行政と議会の両輪で議論し進めて行かなければならないと改めて強く感じました。今後は決まった「現所在地」で如何に敦賀市及び市民の利益に叶う市庁舎を建設していくかの議論に移って行きます。一議員としてもできるだけ多くの市民の皆様方と意見交換をさせて頂きしっかりと「お声」を反映させていきたいと存じます。

2. 6月定例議会、主な一般会計予算

=教育費=

- ・小中一貫校整備事業費 (小学校費) / 2,596万6千円
(中学校費) / 2,394万2千円

事業内容：老朽化する学校施設への対応や児童生徒のより良い学習環境の向上等を目指し、角鹿中学校、北小学校、赤崎小学校及び咸新小学校を統合した小中一貫校を設置するため基本計画の策定及び基本設計を行う。

所 感：平成34年開校を目指し動き出した一体型の小中一貫校の事業であり、福井県内でも初めての取り組みとなる。今後、「角鹿中学校区小中一貫校設置準備委員会」が約10回にわたり委員会を開催し、学校のソフト面である校歌・校章など具体的な中身を詰めていく予定。私も文教厚生常任委員会に所属しており集中して審議できる環境にいる中で学校に通う子供たちの利益を第一に考えしっかりと議論していきたい。

以上